

Ｊ６タンク移送ラインからの漏えいに関する福島県からの申し入れ事項(12月17日)

申し入れの内容	回答
<p>1 漏えいした処理水の回収を速やかに行うとともに、環境への評価をしっかりと行い必要な対策を確実に講じること。</p>	<p>漏洩した約6m3のALPS処理水については漏えい箇所周辺に留まっており、海洋等への影響はありません。 漏えい箇所周辺の土壌、および漏えい水については、当日(12/17)中にそれぞれ約0.9m3、約9m3の回収を実施しており、土壌については翌日(12/18)も引き続き実施し、合計約5.7m3を回収して予定されていた回収を全て終了しました。これらの速やかな回収により、環境への影響はないものと考えしております。 なお、漏えい箇所周辺の空間線量は2~8μSv/hでバックグラウンドと有意な差はないことを確認しております。</p>
<p>2 原因究明を速やかに行い、再発防止の徹底を図ること。</p>	<p>今回の原因は、施工図面から配管ラインを読み間違え、間違えた手順書を作成してしまい、その間違えた手順書をもとに、施工中の配管につながる弁(F765弁)を開てしまったことにあります。 再発防止として、現場で操作を行う際に、初めて使用する配管に対してはライン構成について確認することとし、このことを社内の手順書に反映して改訂し、再発防止対策の徹底を図りました。</p>
<p>3 作業指示や手順書のチェックを確実に行うなど、作業上のリスク管理を徹底すること。</p>	<p>今回の原因は、施工図面から配管ラインを読み間違え、間違えた手順書を作成してしまい、その間違えた手順書をもとに、施工中の配管につながる弁(F765弁)を開てしまったことにあります。 現状の施工図では配管の接続が読み取りづらいため、今後は読み間違えることがないよう、工事実施箇所から設備運用箇所へ配管の接続が容易に判明できるように情報を着実に伝達し、作業上のリスク管理を確実に実行できるようにしていきます。</p>